

徒然なるままに想うこと 日南の森林からエネルギーを生み出す発想
(木質バイオマス)

日南町下石見 浅川 三郎

頭の中ではどなたでも考える事が出来る。
果たして実現しようと思えば大変なエネルギーが必要となります。
このエネルギーの源をどこから求めたら良いのでしょうか？

皆様考えたことがありますか？

この度ノーベル物理学賞を受賞された3人の物理学者（青色発光ダイオード）の方々、
口を揃えて述べておられる。

最初から実現出来るとは思っていなかった。

自らの発想を挑戦することによって、継続することで実現が可能になったと述べておられる。

まず夢を描き、その目標に向かって挑戦したからこそ夢の実現が出来たのです。

3人の物理学者に敬意を表したい。

あらためてこの日南町の夢実現のための発想づくり、やはりふるさとの現実、自然を知る教育の中から始まるのではなかろうか。

我々の地域に資源がありながら、その資源を活かすことが出来ないのは努力不足としかいいようがない。

先般、日南文化誌に投稿されていた安藤先生の記事を読んで素晴らしい発想の内容であった。

木材をエネルギーに使うバスを走らせる一町内観光スポットを走らせる夢。

日南町ならではの提案であった。

12月10日の日本海新聞で紹介されていた鳥大生が同じような提案を町長にしたとの記事であったが、安藤先生の文は10月25日発行の日南文化誌に公表されたものである。

私は密かにやった！と感じた。

何でも無い発想の中から夢の実現が可能になる事を私たちは気付くべきであり、よくぞ提案をしてくれたと思う。

今後はこの提案を素上りにのせてスタートさせるエネルギーが必要である。

みんなでそのような環境を育てようではありませんか。

いや、もう育ちつつあると私は感じている。

若い世代に活力みなぎる若武者の出現を待望してやまない。

